

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4492100013		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	グループホームひだまり新館		
所在地	大分県東国東郡姫島村1658番地の1		
自己評価作成日	平成27年12月25日	評価結果市町村受理日	平成28年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成28年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①多くの高齢者の方々は、住み慣れた村で家族や友人に囲まれて暮らすことを願っています。ひだまりでは、認知症高齢者の方々が生まれて育った慣れ親しんだ環境のもとで自由でくつろいだ生活をする事により、言葉数が増えたり表情が明るくなったり落ち着きを取り戻すなど認知症の進行を遅くすることを支援し認知症になっても姫島から出ていなくても良い「ひだまりがあるから」と地域住民に安心していただくホーム作りを目指しています。</p> <p>②認知症になっても生まれた島にいてよかったと思われるように、地域の催し事に積極的に参加し、今までの生活の延長を楽しめるように交流を図っています。</p> <p>③在宅認知症の方、その家族が安心して日々の生活ができるように通所介護、短期入所を受け入れます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・姫島村唯一のグループホームとして、認知症や高齢により住み慣れた地を離れることなく、穏やかに住み続ける事が出来るよう働きかけを行っている。 ・地域の高齢者世帯・独居・認知症の人を把握し、専門職としての支援を行っている。 ・職員のチームリーダーを中心として、職員主導による事業所運営が行われている。 ・利用者のBPSDを詳細に記録し、専門職と事業所の連携により症状の改善、穏やかな暮らしに繋げている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝ミーティングの後、理念を復唱し利用者の意思を尊重できる介護を行っている。介護に困った時に振り返る材料として共有している。	理念として掲げている3項目は、一人一人の利用者の思いを大切にされた支援や、地域に開かれた事業所運営に活かされ、共有に努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年の、運動会は、姫島村が専用のテントを張ってくださりそこで見ることができました。島民全員参加型なので知人親戚の方が声掛けしてくれています。お誕生日会は地区の方と家族が歌や踊りに参加してくれて一緒に楽しんでます。	日常的に地域住民との交流が行われている。姫島村唯一のグループホームとして、行政や福祉事業所と協働し、地域の高齢者・独居世帯・認知症介護の相談や支援を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度、認知症の方の入所施設がなく数人の方が島から出たため何とかできないかとの要望が強く1ユニット増築しました。大きく広報活動はありませんでしたが自宅で困っている家族には相談等してサポートしています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において事業所での現状や活動内容の報告を行い会議で取り上げられた意見を職員会議で報告し問題点を改善しながら共有している。又、村内の福祉サービスについても話し合い連携したサービスが提供できる体制作りをしている	運営推進会議は、協力医の姫島診療所、複数部門の行政職員や地域の代表が委員となっている。利用者や事業所の状況報告を行い、出された意見や提案を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	村の担当者とはたえず連絡をしい新規事業の開設に向けても多大な協力をいただきました。解らない事は調べて前向きに取り組んでくれている。	行政から3部署の職員が運営推進会議の委員として出席している。介護保険担当者とは、信頼関係が構築されており、困難事例や介護保険制度の情報提供や相談、助言が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の重要性について職員会議や毎朝のミーティングで確認しあい入浴時には身体のチェックを行い見過ごしの無いようにしている。	BPSDの激しい利用者の言動は、詳細に記録に残し、職員間で共有し、専門職の協力の下、リスク回避が行われている。近隣住民が「ひだまり」の利用者を理解し、見守りの協力が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開放した開かれた施設づくりをめざしているため毎朝虐待防止にかんする言葉の復唱を行い職員に意識づけている。地域の方も自由に入出入るので常に他者の目があり虐待防止につながっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を受講したものは理解できている。その他は自施設研修		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に管理者から丁寧に説明を行っている。又、入・退院を含め支払い時に詳しく説明を行い納得を得ている。料金改定の際は家族会議を開催し改定の理由を説明し了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、入金時や面会時に常に問いかけ、何でも気やすく言ってもらえるような雰囲気作りを留意している。出されて意見については、毎朝のミーティングで話し合い早期解決を図っている。	家族の訪問も多く、日常的に交流が行われ、意見や要望を伝えやすい関係づくりが出来ている。島外に暮らす家族に、ラインでのやり取りで利用者の日常の様子を知らせ、家族の安心が得られている事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で運営状況の現状を報告している。運営や決定事項は殆ど職員と合同で進めて行き全員で話し合っ決定する等自分たちで働きやすい環境作りをしている。今年、新雇用のパートから意見を聞いてほしいとのコメントが1件あった。	それぞれのユニットは、職員がリーダーとなり、チームでの運営が行われている。ユニット間での職員の情報の共有もできており、話し合いの下、新人職員の育成や助勢が行われ、利用者支援や運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営者も現場の職務に携わっているため、業務内容の改善や悩みなど把握できている。家庭の事情があればシフト変更できるようにしている。今年は、やりがいのある職場で要望を聞いてもらえるとの意見が多かった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人ひとりがより高い知識・技術・資格確保のため外部研修を受講した。外部研修を通して苑内教育とした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先で同業者と交流する機会があった。他施設の活動や設備を参考にしてサービス向上に努めた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ここで暮らすことを納得してもらうために無料でお試し期間を設け事前面談で得た希望や要望、好き嫌い等本人の思いに寄り添えるように職員一人一人が信頼関係を築いていくよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と相談者(村外)が離れている場合、24時間電話相談受け入れ、土・日相談面会受け入れ等家族に負担の無いように話を聞くよう努めています。ご家族には、安心していただくため写真つきメールを送信し生活の様子を見ていただきました。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向が違う場合、まず体験入所していただき、入所可能か否か判断していただく。まだ在宅生活が可能な場合は、各事業所と連絡調整しデイサービスや短期入所等段階的な支援を工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者も皆知り合いで、馴染が深く安心して暮らせる環境です、その中でも尊厳を重んじ利用者も家族の一員と言う意識の元、お互い協働しながら生活できるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、イベントなどを等して交流を図り日々の暮らしの出来事や情報の交換と共有に努めています。また職員は、自分を利用者の家族として置き換え今必要な支援は何か極め支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や地域の方が気軽に立ち寄れるオープンな環境作りを心がけています。生家や自宅に立ち寄れるドライブを計画し家族や知人近所の方との交流が出来るように支援するとともに状況に応じて本人が望む場所に行けるように図っています	姫島村の地域性を生かした馴染みの関係の継続支援が行われている。家族や知人が事業所に気軽に立ち寄り会話し、出先でも自然な交流が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。テーブルの配置や席替えなども行う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年の利用者が入院した場合毎日職員が面会に行き家族や看護師、主治医との連携を密にしました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に家族からこれまでの暮らしぶりを聞き取り本人の望む暮らしが出来るように取り組んでいる。困難な場合は日々の暮らしの中で言葉や表情行動から本人の望むこと嫌う事を把握しストレスのない生活が出来る支援をしています。	利用者の心身の状況を詳細に把握し、認定調査・医師の意見書や利用開始前に関わりのあった専門職からも情報を得ている。日常生活の中で、ゆったりと話を聞き、意向の把握に努める工夫も行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	村内の医療・福祉の関係者が運営推進会議・ケアマネ会議の中で情報交換し在宅認知症の方の現状がほぼ把握できているので入所後は、家族からの情報を収集し又、昔話からどんな暮らしをしていたのかを知り日々のケアに役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者1人1人の生活リズムを把握するとともに行動や話しぶりから本人の全体像を把握する。ミーティングで状態報告し1日をかけて本人への働きかけを含めて記録し全員で確認し本人に適した支援を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回、職員会議でカンファレンス・モニタリングして必要なサービスが提供できるよう全体で協議して支援している。	利用者の課題や利用者らしさを活かした介護計画を立てている。毎月の職員会議では、全職員参加の下、支援経過や利用者の変化を話し合い、現状に即した介護計画の共有実践に繋げている。	

事業者名:グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイル記録簿に食事・水分・排泄・バイタル・入浴・プラン等日々の暮らしの様子や本人の言葉やエピソードを記録している。毎朝のミーティングで確認し情報の共有を図り実践に移している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の要望やその時の本人の精神状態や状況に合わせて臨機応変にサービスできるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今の暮らしを断ち切ることなく野菜を作ってきた方には生育がわかるように日々畑を見て話したり、皮むき、カンコロ、干しかぶつくりをし、魚業をしてきた方には、鯛、スズキ、ハマチ、フグ等の差し入れがあった時には見せて楽しんでもらう。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である診療所の医師・看護師が毎月1回定期的に診察に来てくれている。突発性の受診は基本的には家族に同行を求めているが継続治療は職員が代行し受診結果は必ず家族に報告している。入院時は家族と同席で説明を聞くようにしている。	島の診療所医師が掛かりつけ医となっている。運営推進会議の委員として事業所運営にも関わり、様々な疾患や認知症のBPSDについて、日常的に相談・協力・支援が得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は1日2回のミーティングで、利用者の報告を行う。毎日入浴での全身観察、ケアを通じて異状の発見が早く健康管理が出来ている。異常時は電話で看護師と相談ができ医師への報告、診察がすぐ可能な状態になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年は診療所に入院した場合、毎日面会に行き家族・看護師・主治医と情報交換した。医師からの説明は、家族を同伴させ行き違いのないように心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所ができる最大のケアについて入所時に説明を行っている。重度化した場合のあり方について幾度も話してきたので、今回1名の対象者について退院の見込みがない時点で次ぎの方針をスムーズに決める事できた。	継続的な医療処置が必要となった場合は、住み替えの支援を行っている。掛かりつけ医や看護師の助言や協力が得られており、医療と介護の連携の下、重度化支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤時の緊急対応についてマニュアルを作成し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災・非常災害マニュアルを作成し共有している。防災訓練を年2回実施し夜間想定訓練を行った。村が行う防災訓練にも参加している。今年度スプリンクラーを設置した。	年1回、防災訓練に消防署の参加が得られている。夜間想定訓練や移動可能な利用者の屋外への避難誘導訓練が行われている。専用の倉庫に、食材や衛生物品の備蓄を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の職員会議において個人の尊厳、プライバシー保護について話し合っている。トイレ介助時、入浴時、ドアの開閉に気を付けなければいけないシーンがあった。声掛けには、他人に聞こえない配慮を意識的にしている姿勢がある。	排泄誘導の声掛けや排便確認など、利用者のプライドを傷つけない取り組みに努めている。地域全体が顔馴染みの関係の為、地域行事参加の中での利用者の尊厳の配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人表情や言動からの思いや希望をかなえられるように日々の生活からくみ取り支援につなげています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、形にはまった過ごし方はしていない。利用者の状況によってその日その日でスケジュールが違い柔軟な生活を送っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、髭剃り、着衣の汚れ、食べこぼし等に配慮し誰が来ても恥ずかしくないように心がけています。利用者のなじみの美容院へ送迎をし望みをかなえます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	たまに好みの食べ物を聞き献立に生かしています。旬のもの、郷土料理を一緒にしています。片づけも時間がかかったりやり直しが多くありますがやる気を尊重し一緒にしています。	事業所の畑でとれた野菜や、地域からの差し入れを組み入れ、3食共に手作りの食事が提供されている。重度化に伴い食事形態を変え、食事介助に時間の掛かる利用者も共有空間の食卓と一緒に食事をとっている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の体調と1日の摂取量を把握しています。水分を取れない方には本人の好む飲み物を用意し必要量確保できる支援をしています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後3回歯磨きを行い、洗面所に行けない方は義歯洗浄と口腔ケアを行い肺炎防止に取り組んでいる。口腔体操を取り入れ嚥下機能のリハビリを行っている。ポリデント消毒は週1回とし、必要に応じ歯科医に相談できている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用者や尿意のない利用者も日中はトイレで排泄が出来るように時間を見計らって便座に座られて排泄を促している。日中のおむつ外しに取り組んでおむつ代のコスト削減につなげました。	介護度1から5の利用者全員がトイレでの排泄を行っている。安定して便座に座れるように寄りかけられるバーを取り付けたり、定期的な声掛けやトイレ誘導により、安全に気持ちよく排泄できる支援が行われている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録で便秘の方には施設で取れた芋や繊維質の多い食材を提供している。頑固な便秘には服薬で排便コントロールを行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を行っている。入浴中に個別に話ができるので、家族のことや本人の思いを聞きながら信頼関係を築き、楽しんで入っていただいている。拒む方は時間を調整し再度声掛けして入っていただいている。	新設のユニットにリフト浴を設置し、重度化対応が行われている。個別入浴で、全員が湯船に浸かり、職員と会話を交わしながら昔話や自身の思いを口にするコミュニケーションの場にもなっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活スペースに合わせて、午睡したり、夜間良く眠れるように日中の活動に配慮している。眠剤を服用されている方は睡眠状況を把握している。不安が強くて眠れない方は、眠れるまでそばについている場合もある。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や容量が変更されたり本人の状態変化が見られた場合は連絡帳と回覧で全職員が把握する。その後、観察、記録、話し合いを行い協力医療機関と連携を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活で自分も役に立つんだと言う満足感を味わえる取り組みをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の思いを把握し、家に帰りたいようであれば散歩やドライブをしながら望みがかなうよう支援している。近所の友達や地区の方と雑談が出来るよう車から降りて話したりしている。車いすの方も馴染の風景を見て安心するように15分位の散歩をして行きかう方と話が出来るよう支援しています	日常的に外気を感じる環境づくりが行われている。利用者全員で村の行事に参加したり、個別での外出も行われ、個々の利用者が、穏やかに時間を過ごせる支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持しておらず、金銭管理は家族にゆだねています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞いを出しています。最近では携帯電話を所持している方もいて、いつでも家族とやり取りができ、近況を求める家族には、写真メールで安心していただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは明るく窓から畑で働く人を見たり遠くの山々の変化で天気を予想したり季節の移り代わりを感じています。 壁面には自分たちが作成した手作りのはり絵や切り絵を季節に応じて作成し楽しんでいます。	食卓や畳の場、風呂やトイレなど、利用者の共有する場は、清掃や換気が行き届き、清潔で快適に保たれている。季節や行事に合わせて共同作業で作られた作品や、事業所行事の写真が、利用者や訪問者の思い出や話題づくりに役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	冬はこたつで気の合う入居者同士がくつろいだり夏はデッキや廊下の椅子でくつろげるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団は今まで本人が使用していたものを持ち込んでいます。	居室で安全に過ごせるよう、利用者の身体機能や癖を理解して、家具やポータブルトイレの配置の工夫を行っている。利用者の担当職員が居室の管理を行い、日々の勤務者が日々の更衣や環境設定支援を行っている。	

事業者名:グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「便所」とわかるように表示し部屋には自分の顔写真と名前を貼り判別が出来るようにしています。歩行器には自分のものと分かるように色つき名札を目印にして使いやすくしています。		